

## 第1章 はじめに

100年に一度の大転換期に直面しているといわれる自動車産業において、健全で持続可能なサプライチェーンの維持と再構築は、ティアの深いところに位置する中堅・中小企業の存立なくしては成立しない。国際経済面ではアメリカの自国第一主義による関税政策と米中貿易摩擦、国内面では物資や人件費の高騰と人手不足など、自動車産業はもちろん、中堅・中小企業の経営環境は厳しい状況におかれている。

第13期の調査研究報告書では、サプライチェーンの構造的特徴、価格転嫁の進捗状況と中堅・中小企業の経営課題について整理し、ティアの階層別企業と国・自治体への提言を行った。第14期はそれを踏まえて、より深刻度の高い人材に関する諸課題に着目して、問題点の整理と提言をとりまとめた。

第2章では、中堅・中小企業における生産現場の人材問題について、ヒアリング調査で収集した「生の声」に基づいて状況の厳しさを概観する。第3章では、そのような経営環境の下で、経営陣と現場の管理・監督者が独自の創意工夫によってこの難局に対峙している好事例を紹介している。最後に、第4章において、OEMメーカーとティア1サプライヤー、国・自治体に対して中堅・中小企業への支援に関する提言と、中堅・中小企業のこれからの経営について若干の提案を行っている。

本調査の概要は、下記のとおりである。

- 期間：2025年1月～2025年7月まで
- 調査対象：中堅・中小企業 16社
- 方法：ヒアリング調査

\*報告書の文中では、調査の中で集めた中堅・中小企業の声について、斜体・下線を付した。